

能代市少子化要因調査・分析事業
中間報告

秋田県「少子化要因調査・分析事業」

- ・ 若年者の未婚化が出生率の低下・低迷を誘引する傾向
- ・ 第1子出生率の低迷、第3子以上の比較的高い出生率
- ・ バランスのとれた“地域力”
- ・ 家族と地域コミュニティ
- ・ 伝統産業、地場産業の繁栄と転換
- ・ 新たな共助システムの構築

定量分析からみた
能代市の特徴



(別紙参照)

能代市の特徴 ～他地域との比較において～

【各種データから定量的に把握できる特徴】

- ・未婚者割合が高い、第1子の(有配偶)出生率が高い
- ・三世代世帯割合が低い
- ・第三次産業就業者割合が高い
- ・女性の管理的専門的技術的職業従事者割合が高い

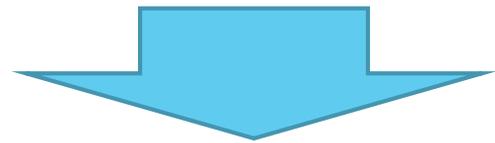


総じて、“大都市”にみられる特徴

人口減少と地域への影響

【10～70代の地域住民へのアンケート調査より】

- ・人口減少を実感している－約80%
- ・人口減少への対策は重要－約80%



- ・子ども数がどんどん少なくなっている
- ・地元に残っている人のなかには結婚していない人も多い
（特に、長男）
- ・地域の人口が減り、商店街にも後継者のいない店が多い

若者の地域への思い

【高校生へのアンケート調査より】

- 地元進学（35人）⇔地元以外へ進学（334人）
- 地元に戻りたい（60%）
- 帰るつもりはない（37%）

- 生まれ育ったふるさとで暮らしたい（24%）
- 家族と一緒に暮らしたい（18%）
- 地域のために自分も何か力になりたい（24%）

- 地元で希望する就職先がない（39%）～特に男子学生
- 就職を希望する職種：医療関係／公務員／製造業、IT等、ファッション・デザイン

【ヒアリングでは】

- 同級生の集まりなどで、都会から戻ってきたい、地元へ帰ってきたいという人が一定数存在する一方で、地元意識が弱まる傾向も
- 親の意識として、子どもに1回は外へ出てほしい、外の世界を経験してほしい、そしてしばらく働いたら戻ってきてほしいと考えている人が多い

⇒ その背景には親の影響も

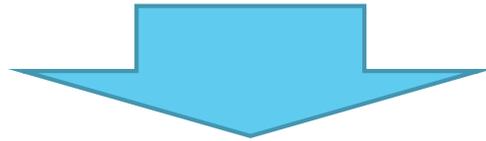
親世代のなかにもかつて首都圏やその他の大都市で就学、就業した経験のあるものが多い

親世代は地元資源をどの程度知っている？

家族・世帯の特徴

【各種データから定量的に把握できる特徴】

- 能代市における未婚者割合、少子化、離婚率
- 三世帯世帯割合が低い



- 多様な家族形態
- 子どもが3人以上いる夫婦と祖父母の支援
- 集える場所（とりわけ屋内）に対する要望

結婚に関して

【18～49歳の未婚者へのアンケート調査より】

- ・結婚を希望する未婚者において、とくに何も活動していないー約65%
- ・参加してみたいイベントや講座はないー約44%



結婚に関して

【ヒアリングでは】

- ・昔はあととりだから結婚しなければいけないというような意識があった（⇔ 今は希薄）
- ・結婚したいという意欲・願望はあっても、自分から積極的に行動を起こしていない人が多い
- ・“自立”した女性が多い、男性は？

能代市の結婚支援の特徴

- ・ 県北地域は、あきた結婚支援センターの登録者数が他地域よりも少ない
- ・ NPO法人をはじめ民間団体（および個人）による主体的でユニークな取り組み
- ・ 地元ではなく……

考察

～まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連において～

- ▶ 能代市内における地域的な差異
- ▶ 大都市とのつながりを持つ住民
- ▶ 小規模化する世帯、多様な居住形態
- ▶ 2つの自立
- ▶ 地域間の連携

- ▶ さりげないおせっかい（ナッジ）

※Nudge:肘でそっと相手を突く“選択肢を制限せず、人の行動を促す”
2017年ノーベル行動経済学賞シカゴ大学のリチャード・セイラー教授